

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	春日部市新本庁舎建設工事	階数	地上6階
建設地	埼玉県春日部市	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、第二種住居地域	平均居住人員	1,298 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2021年3月1日
敷地面積	8,410 m ²	作成者	高山 将太
建築面積	3,929 m ²	確認日	2021年3月1日
延床面積	17,081 m ²	確認者	織間 正行



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 3.3 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.7</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.4</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.1</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.9</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>埼玉県春日部市に新設される市庁舎である。市民の集う憩いの場であると同時に、BCPや環境負荷抑制にも配慮した計画である。</p>		<p>その他</p> <p>-</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>・開口部遮音性能をT-2以上とし、また照度の確保や照明制御等にも配慮し室内音環境や光環境の向上を図っている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>・耐震性能の向上や非常用発電機の設置によるBCP対応、また床荷重や壁長さにゆとりを確保し将来の計画変更への対応性向上を図っている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>・良好な景観形成への配慮、また地域住民への施設・敷地提供等を計画し地域のアメニティ向上を図っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>・高効率な設備システム採用、自然エネルギー利用手法の採用により、省エネルギー・環境負荷低減に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>・節水器具やリサイクル材の採用により、資源保護を図っている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>・駐車駐輪スペースの確保、管理用車両スペースの確保により、周辺道路の渋滞抑制に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
春日部市新本庁舎建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.7
Q1 室内環境							0.40			3.4
1 音環境						4.0	0.15	-	-	4.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						5.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		T-2以上				5.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能						-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音		二面に吸音材を設置				4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.5	0.35	-	-	2.5
2.1 室温制御						3.2	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		外壁 U値:1.0以下、窓システム U値:3.0以上4.0未満(W/m ² K) SC:0.5以上0.7未満				4.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						4.2	0.25	-	-	4.2
3.1 昼光利用						5.0	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率:2.5%以上				5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備		階段室-1にハイサイドライト、エコボイド上部にトップライト				5.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		照度:750lx				4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		センサーによる自動照明制御が可能				5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	-	-	
4.2 換気						4.3	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上				5.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		給気は各種排気と異なる方位				5.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 監視を中央で常時実施。空気質管理マニュアルの計画。				5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.8
1 機能性						3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ						2.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						2.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高さ:3m				5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース、自販機の設置				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		照明・内装の一体的な計画、インテリアパースによる事前検証等				5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防鳥対策、防錆対策等				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃用流しの設置、管理倉庫の計画等				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						4.5	0.30	-	-	4.5
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		損傷制御設計(制震)を実施				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		建物全体に免震・制震を導入				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		アルミパネル、チタン亜鉛合金、ガルバリウム鋼板:40年				5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		天井:ホード(30年)、壁:塗装(20年)、床:ビニル床材(20年)				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出、厨房排気系統へSUSやガルバリウムダクトを採用。				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種において、2種類以上にC以上を使用。				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						4.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		災害時に重要な換気系統・空調系統への電源供給等。				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		中水の利用等。				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電機の設置等。				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラス:S				5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1以上0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		基準の1.5倍以上の割増。	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		外観パースによる良好な景観形成への配慮等。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域への施設提供、中間領域の形成等。	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		高断熱な外皮の採用。	4.7	0.20	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用		自然エネルギーの直接利用がある(15MJ/m ² 年以上)。	5.0	0.10	-	-	5.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.61	4.9	0.50	-	-	4.9
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	4種類以上のシステム効率の評価を行うことが可能。	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	管理方針、管理体制表、目標値の設定を計画している。	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		節水コマの他、省水型機器を採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水・井水の利用がある。	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.60	-	-	4.1
2.1 材料使用量の削減		免震構造、機械式継手、BCP材の採用等	5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		既存建築躯体を再利用している。	5.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床:ビニル床材、壁:木毛セメント板、天井:ボード	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		OAフロアを採用している。	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法の対象物資を含有しない建材種別が1つ以上ある。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火設備の採用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡系断熱材はODP=0、GWP<50である。	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		LCOO2排出率抑制への配慮	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	必要量を上回る流出抑制対策を実施している。	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場は適切な量を確保している。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告物照明を設置しない	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	